

多収でいもち病に強い 早期水稲加工用米新品種「宮崎52号」の育成

早期栽培向けの焼酎麴米用品種を開発しました。

背景・目的

- 焼酎麴用米は、国産、地元産米の需要が高まっていますが、価格が低いため、多収で低コストで生産できる品種が求められています。
- 普通期栽培では専用品種「み系358」が育成・作付されていますが、早期栽培では主食用品種「夏の笑み」が主に作付されているものの、いもち病に弱く、作付が伸び悩んでいました。

成果の内容

■ 「宮崎52号」は、「おてんとそだち」と、いもち病に強い「東北195号」を交配し、選抜育成しました。

■ 特徴

- ① 多収：「コシヒカリ」より1割多収。現地試験では「夏の笑み」を上回る。
- ② いもち病に強い：いもち病ほ場抵抗性遺伝子Pi39(t)をもつ。
- ③ 焼酎醸造に適する：極端にべたつかず、醸造作業性が良い。

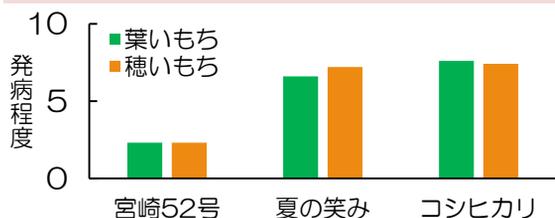
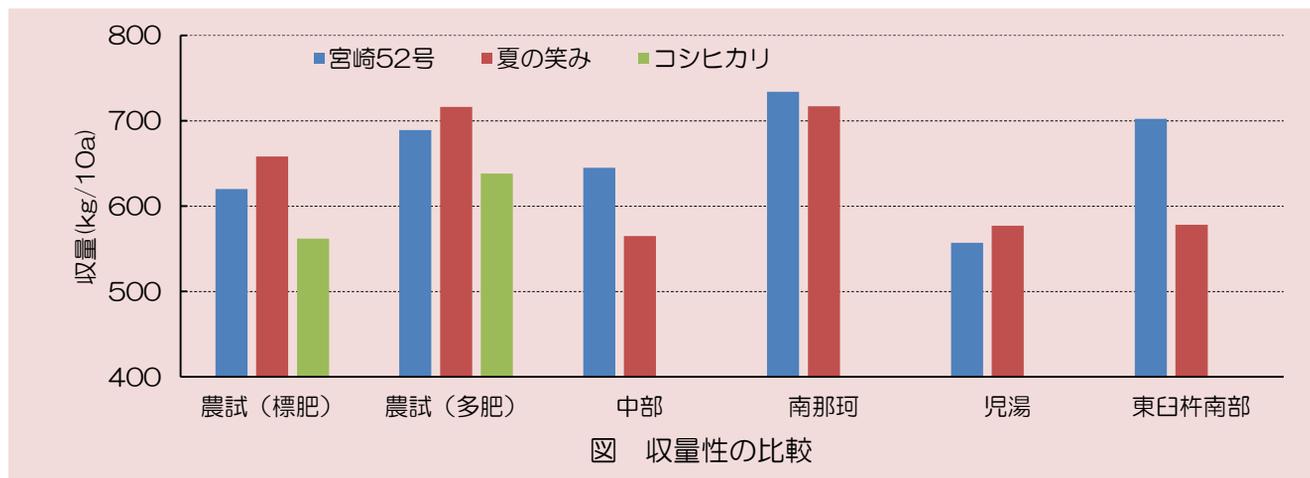


図 いもち病発病程度(0:無~10:甚)



図 いもち病発病の様子
(左上：コシヒカリ、
右上：夏の笑み、
下：宮崎52号)



図 株標本 (左から、
宮崎52号、夏の笑み、
コシヒカリ)

成果の活用方法(又は期待される効果)

■ 早期栽培加工用米品種として普及し、普通期栽培加工用米品種「み系358」と合わせて県内加工用米の生産拡大、定着に貢献します。

■ 普及対象地域・面積

早期水稲栽培地域：400ha(2019年目標)

留意点

■ 穂発芽しやすいので、倒伏しないよう、極端な多肥は避けます。

関連普及技術カード：平成30年前期、関連事業名：多様な地域ニーズに対応する特色ある水稲新品種の育成(県単)

研究期間：平成20年~29年